

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493600027		
法人名	特定非営利法人 なごみ		
事業所名	グループホーム ポラーノの杜		
所在地	宮城県仙仙沼市田中前4丁目7番地3		
自己評価作成日	平成 25年 8月 16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームはグループホーム型仮設住宅で生活し2年が経過としています。ホーム周辺には商店街や眺めの良い神山川があります。また、姉妹事業所も複数あり、利用者様のご要望に応じ、いつでも気軽に外出しています。高台に再建中のホームは、晩秋には完成予定です。利用者様、職員共々新しいホームの再建を心待ちにしています。代表者は子育て等で勤務時間や勤務内容に制限がある職員に対し、様々な条件を受け入れるための職場環境の整備と意欲向上に対する支援に努めているほか、各職員の適性に合った研修会への参加を促し、キャリアアップの啓発にも力を入れています。認知症サポート者養成講座や職業訓練の実習施設としての受け入れ、今年度からは本吉支所委託事業の介護予防教室も開催しており、地域への社会貢献と情報発信を積極的に行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮沢賢治の童話から名づけられた「ポラーノの杜」は東日本大震災で被災し、仮設住宅で生活している。同じ環境の「グループホームぼらん」が隣接しており互いに行き来し交流を楽しんでいる。11月に高台に完成予定のホームに、入居者と職員一緒に見学に行き引越しを待ち望んでいる。施設長は自身の祖母の介護の体験を活かし、本人と家族が安心して生活できる施設を目指し、入居者一人ひとりに合わせたサービスの提供や職員を大切に作る環境作りに取り組んでいる。そんな思いが入居者、家族、職員に伝わり信頼関係は良好である。「本人はとても満足しています。家族は感謝です。」と家族アンケートは高い評価である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームポラーノの杜 )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の小ミーティングと月例ミーティングの際職員で唱和している。介護理念を各職員のネーム裏に掲示し、ケアで迷った際の道標となっている。また、年に1度は全職員で振り返り、ケアの方向性を確認している。	開所時職員全員で作成した「共に歩み寄り、よりそう、願いに共感し、叶えたい」を事業所理念とし、事務所の壁に掲げ、毎朝唱和することにより確認、意識し質の高いサービスが提供できるよう日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方とすれ違う際は挨拶を交わしている。顔なじみの方もおり、声を掛けて頂くこともある。イベントや避難訓練の際は案内を配布している。2ヶ月に1度、地域の美容院が散髪ボランティアに来て頂いている。	仮設住宅での生活が2年になり、買い物や散歩時に馴染みの顔が増えた。ホームの中庭でする「流しソーン」は子供達に喜ばれている。9月に地域ボランティア主催の被災者仮設住宅の「復興支援住宅デー」に招待された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト研修を受講した職員が、認知症サポーター養成講座の講師や他講師の寸劇の補助等を行なっている。その他、毎年地域の小学生を対象とした福祉学習を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市より仮設ホームであることを配慮して頂き、昨年10月から同地区の姉妹ホーム3施設合同で運営推進会議を行なっている。助言や意見は早急に反映できるよう努めている。	震災の為仮設住宅に転居し、環境が変わり2回の会議開催である。地域住民、入居者、家族、包括支援センター職員等18名の参加がある。意見、要望として看板の設置等について話し合われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	震災復旧の手続きや介護保険関係で相談させて頂いている。認知症サポーター養成講座の依頼を受けたり、友愛訪問員や市の介護予防事業を受託しており良好な協力関係を築いている。	市の委託事業で、仮設住宅の高齢者の相談、話し相手に友愛訪問として職員を派遣している。現在300名の見守りをしている。キャラバンメイトによる「認知症サポーター養成研修」を開催する等連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。外部の身体拘束の研修会にも出席し、復命書や資料は回覧し、全職員が理解できるようにしている。その方にとって、苦痛になっていないかを常に考えながらケアに取り組んでいる。	職員は外部研修や内部勉強会等により身体拘束による弊害を理解し、ケアに取り組んでいる。外へ出たい様子を見かけたら、そっと側に寄り一緒に行動する等している。転倒防止のためベットの足元に、必要だと判断した時のみセンサーを使用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルをいつでも閲覧できるようにしている。外部の研修会にも参加し、報告書は回覧し周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部の研修会に参加し、勉強会で伝達講習を行なった。その際、まもりーぶや財産サポートセンターを利用されている利用者様もおられるので、身近なサービスとしての理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書と重要事項説明書を用いて時間を掛けて説明している。解約の際も詳しく説明し、ご理解を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けた他、利用者様やご家族が気軽に話して頂ける環境作りをしている。要望等は記録に残し、欠かさず上司にも報告している。必要に応じて職員間で話し合いの場を設け、運営に反映させている。	面会や電話連絡の時、要望や意見を話し合っている。歩行が難しくなった方の家族から「歩かせて」との要望で、職員が両脇を抱えて移動して現状を維持する等対応している。月1回お便り「ポラーノの杜」を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングは運営者も出席した意見交換の場となっている。日常的に職員の意見や提案には耳を傾け反映できるように取り組んでいる。	「法人と職員はギブアンドテイクの関係。職員全員でシフトを守ってくれるのは本当にありがたい」と施設長が話された。職員一人ひとりに耳を傾け、対応の仕方を提案し働きやすい職場作りを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や様々な条件の受け入れ、働きやすい職場環境や職員の個々の意欲向上に対し支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加を促している。無資格の職員に対しては、全額補助で当法人主催の介護職員初任者研修で資格修得の機会を設けている。介護福祉士や介護支援専門員の受験料も全額補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会や気仙沼市介護サービス法人連絡協議会に加盟しており、他事業所との情報交換や人脈作りを深めている。昨年11月には県グループホーム協会主催の交換研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談窓口を設置しており、入居相談の段階から、要望や心配事の把握、ホーム案内等丁寧に対応することで、利用時に安心してサービスを受けることができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込表には介護上での悩みや、望まれるケア等を記入いただいている。入居問合せ表や相談受付表もあり、問合せの段階から、ご家族より受けた相談内容を記録に残しているので全職員が把握できる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議では代表者、管理者、入居相談窓口の担当者が話し合い、必要なサービスの見極めを行なっている。入居後もご本人やご家族の意向を常に確認し、必要な他サービスの検討、移行をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活でもご本人のできることや得意なことを見極め、活かして頂いている。人生の先輩として教えて頂くことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生会等の行事の際はご家族をお誘いしている。電話や外出支援にも協力頂いている。中々面会に来られないご家族もおられるが、毎月、ご本人のベストショットを郵送し近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や行きつけの美容院等、入居後も関係性を維持できるよう努めている。手紙や電話の支援も行ない、関係が途切れないように支援している。姉妹事業所を利用されていた方は今も足を運んでいる。	友人の美容室(仙台)、入れ歯を作って頂いた歯科医に行く、友人や家族に年賀状を送る等、大切にしてきた馴染みの関係が継続できるよう支援している。法人の林檎の木で林檎狩りをして、元入居者に届けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や利用者様同士の相性等を考慮しながら、交流の場を作っている。全員で参加する行事も多く企画しており、各々が楽しめるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様のご家族から、お便りが届いたり、電話で近況報告をしている。退去された方のお宅へ毎年リンゴ狩り時にリンゴを届けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が話したことは、そのまま記録に残している。意思表示が難しい利用者様についても表情や行動から想いを汲み取るよう努めている。勉強会やミーティングで職員間で話し合う機会を設けている。	職員は思いや意向を耳にした時小さな事でも生活記録に記入している。「ドアを閉めてけらいん」と言った時の時間、場所、どの様な時に出た言葉なのかを書きとめてミーティング時に話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に馴染みの暮らし方シートに記入して頂いている。入居後もご家族に相談しながら、馴染みの生活にできるだけ添えるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な介護と留意事項、ホームでの暮らし方シート、排泄チェック表をもとに全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや勉強会で個々の支援について話し合っている。看護師や担当の意見も取り入れた介護計画を作成している。毎月各担当がケアプラン内容について見返し、必要な際はプランの変更を行なっている。	月1回全体ミーティング時に一人ひとりのモニタリングをし、半年に1回モニタリングを基に担当者、家族、本人、看護師で見直し、介護計画書を作成している。転倒予防のセンサーを外して見守り強化を試みようとプランを変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は24時間の生活の流れが記入できるようになっている。記録や職員各々の気づきを元にミーティング等を通し職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況や想いに合わせ支援している。受診の付き添いが難しいご家族もおられ、その際は委任状により代行を行なっている。選挙の投票の付き添い等も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや催し物にお誘いし参加している。積極的にボランティアも受け入れており、地域の方々と交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者様がご本人やご家族の希望に沿ったかかりつけ医である。受診の際はバイタルチェック表や受診持参表を用いて状態を報告をしている。また、受診結果はご家族にその都度報告している。	家族対応でかかりつけ医を受診する事が基本としているが、家族の都合によりほぼ職員対応である。「受診・受薬・報告書」に記載し、職員全員に周知している。緊急時の医療連携は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がおり、報告や相談をしている。看護師も生活記録やバイタルチェック表を確認し、医療機関へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り見舞い、入院先やご家族から、情報を頂けるよう努め、退院後も安心してホームでの生活が送れるよう備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、ご本人やご家族の同意を得ている。また、状況の変化に応じ、その都度ご家族や職員と話し合い、医療との連携を図っている。	「看取りに関する指針、同意書」を成文化している。看取りの経験はある。看護師の24時間オンコール、協力医との医療連携が整っており、重度化した場合に段階的に話し合っただけ支援していく方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。姉妹ホームと連携を図りながら緊急時に備えている。心肺蘇生やAEDの対応についても合同で訓練を行なった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回避難訓練を行なっているほか外部防災研修にも積極的に参加している。地震や津波に備えて職員間で随時避難対応の確認と話し合いを持ち、非常食や緊急時の持出用品の確認も定期的に行なっている。	安全対策委員(防災管理者)を決めて避難訓練を実施している。前回外部評価目標達成課題であった地域住民の参加は無かった。11月に移転後は呼びかけを強化し、協力を得られるよう取り組んで頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に傾聴の姿勢を大切にしている。誇りやプライドを傷つけないよう配慮している。	トイレ誘導の声がけは耳元でそっとする。終わるまでドアの外で待っている。「薬を飲みましょう」の言葉かけは上からではなく、同じ目線でする等誇りやプライバシーを損ねないケアを心がけ取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いを表現しやすい雰囲気作りに心掛けている。選ぶことが難しい方には2択にする等配慮している。ご自分で表現することが難しい方には、何気ない様子や表情から思いをくみ取ることに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望は毎日の小ミーティングで話し合い、なるべく希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされている方も多く、希望がある際は職員と一緒に化粧品を買いに行っている。外出や行事の際は、ご本人と一緒に衣類を選んだり、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事嗜好表を作成し、その方にあった食べ物、形態で提供している。誕生会には好物を昼のメニューに入れている。料理好きな利用者様には職員ができることを見極め、楽しく料理をして頂けるよう支援している。	法人の栄養士が作る献立を基に職員が調理している。職員も同じテーブルで同じ物を食べている。ウニの殻むきは入居者の方が上手などできることはしている。おにぎりや誕生会のゼリー等作って食べる楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量をチェックしている。嚥下が難しい方にはお茶ゼリーやトロミを使用している。調理担当が作った献立を介護員も確認し、栄養の偏りや季節感等を配慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。ご本人の状態に合わせ声掛けや介助をしている。口腔内に異常がある際は訪問歯科や、その方のかかりつけの歯医者を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を促し、パットやリハビリパンツを使用している方もなるべく布パンツで過ごせるよう努めている。パットもその方の尿量に合わせて使い分けている。	布パンツのみ使用者は3名、自立している方4名も時折介助を要することもあるがトイレでの排泄を大切にしている。チェック表、態度、表情でトイレ誘導をし、失敗の回数が減った。夜間は安眠を考えて個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供したり、食事を工夫している。軽体操や散歩等で便秘予防に努めている。下剤確認表にて細かく下剤や漢方薬を調整をし、その方にあった苦痛がない排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日のバイタル測定値を確認し、ご本人の希望を確認しながら入浴支援をしている。夜間入浴をされている方もおられる。好む入浴剤を選んで頂いたり、好みの音楽を聞きながら入浴される方もおられる。	毎日の入浴、夜間に入浴等入居者の要望に合わせている。3名の方が2人介助で入浴している。「演歌」を歌いながらの入浴、入浴剤の利用等安全に安心して入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方や、外出等で疲れがある方等は無理に活動や入浴を促すことはせず、ご本人のペースで休息をとって頂いている。ホールのソファでお昼寝される方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表があり、職員がいつでも確認できるようにしている。毎食後、服薬チェック表で与薬や点眼忘れがないか職員2人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみも取り入れたレク活動を行なっている。日々の日課や役割も定着している。楽しみながら、張り合いのある生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出や仲の良い利用者様同士、全員で外出する機会も多く設けている。ご家族の協力も得ながら希望に沿った外出を行なっている。	花見、花火、つつじ観賞(室根山)等ドライブを兼ねた季節を感じる外出をしている。日常的には花に水やり、商店街へ買い物、神山川に散歩等車イスの方も一緒に楽しんでいる。ホテルのロビーで開催された法人主催の「ぼらん祭り」に家族と一緒に参加した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭はホーム管理となっているが、自己管理を希望されている方についてはご家族了承のもと所持している。買い物はなるべくご本人と一緒にいき、選んで頂き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時だけではなく、こちらからも利用者様に声を掛けることで、手紙や電話で自ら近況をお伝えして頂き、今までの関係が途切れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには日常の写真を飾っており、利用者様がよく立ち止まって見ておられる。散歩の時に摘んだ野花を飾ったり季節感を取り入れている。	ホールは広く、窓から自然の光が入り明るく、空気に澱みがない。温湿度は適切である。壁に手作りのカレンダーや貼り絵、ボランティアから贈られた千羽鶴が飾られ、花瓶のコスモの花が季節を感じられる。2か所に置かれたソファはくつろぎの場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは好きな場所を選んで頂いたり、利用者様同士の相性等を配慮した食席はご自分の居場所として定着している。ホールのソファや玄関スペースで気の合う方同士が談笑されたり、思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方に合わせたカレンダーや時計を使っている。ご自分で作ったパッチワークや亡くなられた奥様のお位牌を置かれている方もおられる。	居室入口に職員手作りの表札が掲げられている。整理ボックスや家族の写真、日本赤十字社から送られたベッドを思い思いに配置し、居心地よく過ごせるよう工夫があり、自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の際ご自分で召し上がりやすいよう食事台を使用したり、床に足が届かない方には足台を使用し、安定した姿勢が保てるよう工夫している。その方の身体能力と在宅の頃の環境に合わせ、畳の居室で過ごしている方もおられる。		